

令和元年度第2回志布志市まちづくり委員会 会議録

日付：令和2年2月27日（木）

時間：午前10時開会

場所：市役所2階庁議室

【開 会】 企画政策課地域政策係長溝口 進行（10:00～）

【会長挨拶】 下戸会長あいさつ

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

今回は第2期志布志市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び創生総合戦略について協議を行う予定となっておりますので、皆様方の積極的な御意見を賜り、実効性のある計画になればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【課長挨拶】 企画政策課長あいさつ

本日は、前回の「環境基本計画」に引き続き、まちづくり委員会としては2回目の開催になりますが、今年度は最後の委員会となる予定です。

タイトルは難しそうですが、中身は人口減少問題にどのように対応していくかということであり、委員の皆様も興味のある内容ではないかと思えます。皆様方の積極的な御意見をよろしくお願いいたします。

【協 議】 議事進行：下戸会長

(1) 第2期志布志市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（案）について

企画政策課地方創生推進係曲瀬川係長より、第2期人口ビジョン及び創生総合戦略（案）について、これまでの経緯やビジョンと戦略の全体像を説明。その後、「人口ビジョン」について概略を説明し、次のような質疑応答や意見があった。

（質疑応答）

Q1 ビジョン48ページに、令和元年度に高校生のUターン者が29名となっているが、一旦市外に出た高校生のうち29名が市内に帰ってきたということなのか。

A1 第1期ビジョン策定時に、将来人口を推計するために設定した数値であって、実数ではない。

Q2 令和42年の人口展望を2万5千人としているが、令和42年において、どのような市の姿を想定しているのか。

A2 地域の特性を生かしたまちづくりをしていこうとしている。拠点整備が必要ということで、市街地については駅を中心としたコンパクトなまちづくりを、後背地については地域コミュニティにより市民の拠り所、拠点を作り上げていきたいと考えている。

Q3 これまでのまちづくりには、個々の価値観の問題と、大量生産・消費、経済を最優先する政策に問題があった。人間の豊かさは何か、志布志市の誇りは何かという基本的な部分を考えていかなければまちづくりはできない。数字では解決できない。「稼ぐまち」とあるが、いくら稼ぐのか。

A3 それぞれのまちを知り、それぞれが生き生きと暮らせる政策を組み込んでいく。

(意見)

意見1 この統計はとても大切で、この資料を基に人口を増やす取組みをしていかなければならないと思う。市内を見ても若い子育て世代がI・Uターンでお店を開いたりしている。情報社会になり、これからは本市の良いところを情報発信していくことがとても大切である。都会での子育てに悩んでいる若い世代は多く、今後は安心して子育てができることを売りにしていくべき。今からの人達のために私達ができることは、そういったPRである。

意見2 目標として3万人を目指すのもいいと思うが、この考え方が市民に浸透しなければならない。日本の人口の2人に1人は東京圏に住んでいることが問題である。昭和37年には志布志市に置き換えたとき5万3千人が住んでいた。また、本市に本籍地がある人口は4万8千人であり、長い目で見ればそれに近い人口まで、どこまで回復できるかということになる。本市は大隅半島内では一番所得が高かったと思うが、所得の目標も含めても良いのではないか。

(2) 第2期志布志市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

次に、「創生総合戦略」について概略を説明し、次のような質疑応答や意見があった。

(質疑応答)

Q1 戦略16ページの「結婚支援プロジェクト」について、市内に若者が集まれる大きなホールなど、出会いのための場所が無いと考える。また、若い人がまちづくりに関心を持てるような取り組みが必要ではないか。

A1 婚活に限らず拠点の整備は大切な視点であり、戦略の中に盛り込んでいる。若い人の意見を盛り込むことは国からも指示があり、本市では高校生を対象にまちづくりコンテストを行った。また、地元人材育成プロジェクトの中にも若者の活躍について盛り込んでいる。

Q2 基本目標1に「稼ぐ志布志」とあるが、いっぱい「稼ぐ」ことが豊かさであるというのはこれまでの考え方で、今の若い方は家を建てないなど物に執着しない。本市に移住したいという若い方は、そのような価値観を求めて来るのではないのか。本戦略に若い方の考え方をもっと盛り込むべき。

A2 全体的に収入を上げることも、郷土愛などの精神面も大切であり、両面とも重点的に取り組んでいく。参考までに、ビジョン47ページには人口とサービス業立地の相関関係を掲載しているが、必ずしも経済が縮小していいということではないことが読み取れる。

Q3 戦略18ページに「仕事と家庭が両立できる働き方の実現」とあるが、市町村の嘱託職員は処遇が改善されているのか。

A3 令和2年度から会計年度任用職員制度に移行することで、職員と同等の処遇に改善される。

Q4 基本目標1の「稼ぐ志布志」という表現は色々と考えられたのだと思うが、東

令和元年度第2回志布志市まちづくり委員会 会議録

京圏からすると本市の所得は約半分である。ある程度の収入がないと、人を呼び込むのは難しい。所得について、まずは鹿児島県や鹿児島市に近づくなどの目標が必要ではないか。これまでの意見をまとめると「稼ぐ」という響きが嫌いなのではないか。

A 4 「稼ぐ」という表現については内部で検討する。

Q 5 地域内に外国からの移住者が来られているが、子供は日本語を話せるが、両親は話せないため、学校は子供を通じてコミュニケーションをとっている。文化の違いもあり、外国人の受け入れについての考え方も含めるべきではないか。

A 5 戦略 21 ページに「多文化共生」として含めている。

Q 6 多文化共生の部分に、技能実習生を含めるべきではないか。

A 6 この戦略は人口減少対策として取りまとめており、技能実習生についても重要な問題ではあるが、あえて盛り込んでいない部分もある。

Q 7 本市には病児保育があるのか。

A 7 病児預かりを井手小児科で行っている。

Q 8 多くのプロジェクトが掲載されているが、現在の職員体制で実現可能なのか。

A 8 役割分担しながらしっかりと取り組んでいく。「まち・ひと・しごと創生」は行政に限った仕事ではない。市民一人ひとりの意識の問題でもある。当事者として参加していただかないと行政も立ち行かない。皆様の力を借りて「まち・ひと・しごと創生」を進めていきたい。

(意見)

意見 1 戦略 9 ページに有機農業や I P M の取組みがあるが、これに取り組むとイノシシとアナグマの被害に遭う。この有害鳥獣の問題もプロジェクトとすべきではないか。戦略 19 ページの学力水準の問題の根底にはネット障害があると思う。専門の医師はあるが、福岡にしかいない。そういった整理をしていかないと解決しないのではないか。

意見 2 働く所が増え、所得も上がってきても、高速道路が通れば近隣の市町まで通勤圏内になってしまう。そのような要因を踏まえ、ビジョンや戦略をどう生かしていくかが重要だと思う。

意見 3 松山駅周辺の高齢化が著しい。地域内に定住団地を造っても、地域内の子供がそこだけに集中してしまう。高齢化が進み世帯数が減ったり、介護施設に入られたりと、これからは空き家対策が地域の課題であると思う。若い方が住みやすい、子育てしやすいといった取組みに活路があるのではないか。

【その他】 広報紙の穴あけを廃止することについて、委員の意見を伺った。人物に穴がかかるのは嫌だ、穴を必要とする人が開ければよい、などの意見があったが、異論はなかった。

令和元年度第2回志布志市まちづくり委員会 会議録

【事務連絡】 今年度のまちづくり委員会の開催予定は今のところない。次回は、令和2年度に入ってから「公共施設等総合管理計画」について協議していただく予定であるが、開催時期については追って連絡する。

【閉 会】 （～11:40）